

# 週刊 武四郎

第 35 号

2018年(平成30年)12月5日(水)  
発行・松阪市

●毎月第一週は、  
松浦武四郎の人となり  
についてご紹介します

監修・松浦武四郎記念館

## 新選組と武四郎

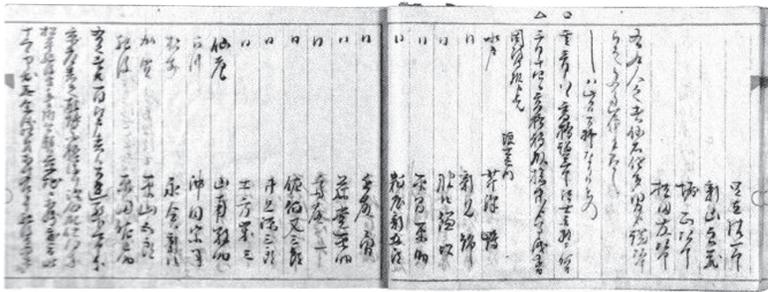
新選組といえは、ドラマなどでもお馴染みです。さて、この新選組の面々も京に上った時は浪士隊の一員としてでした。浪士隊とは何かという……。

黒船来航以来、日本国中が攘夷(夷狄を打ち払え!)と沸き立ちました。黒船が来てから、大地震は起こるわ、コレラや麻疹が流行るわ、物価は高騰するわ……で、何でもかんでも、「異人が神国である日本に踏み込んできたからだ」とみんな思ったんです。当時の攘夷熱は、今私たちが想像する以上の切実さがあったようです。全国から不逞の浪士が江戸に集まってきて、血気盛んにすべ刀を引っっこ抜いて振り回す……江戸の町の治安は非常に悪化したのでした。「浪士をまとめて江戸から追い出す方法はないだろうか」

と、考えた人たちがいました。それが「浪士隊」結成の裏事情だったのです。

ちょうど、十四代將軍徳川家茂が上落することになっていたので、その警護をするという名目で、結局、集められた浪士たちは京に向かうことになりました。

この浪士隊結成に関する覚え書きが残されています。そこには人選名簿が記されているのですが、「清河八郎」(右坂周造)など、のちの浪士隊幹部の名が記されたページに、なぜか「伊勢産 先年箱館御雇 松浦武四郎」の名前が！



▲「浪士一件 文久二年戊辰十二月より」文久2年(1862)  
浪士組人選名簿(国文学研究資料館蔵 なお無断での複写・コピー等の二次使用は禁じられています)

隣には、「土州産 浪人 坂本龍馬」とあるではありませんか。歴史の偶然とはいえ、ちよっとわくわくしてくる資料です。近藤や土方、沖田たちのちの新選組幹部の名は、後の方に並んでいます。《その他大勢》って感じ

です。さて、なぜ武四郎さんが、このように……

**松浦武四郎** (1818～1888)  
三重県松阪市出身。幕末から明治にかけての探検家、著述家、蒐集家。蝦夷地(今の北海道)を6度にわたり探査し、アイヌの人々と交流を深め、蝦夷地の詳細な記録や地図を作成した。維新後、蝦夷地に代わる新たな名称として(北海道)のもととなる(北加伊道)を含む6案を政府に提案したことから(北海道の名付け親)と称される。



文・河治和香 装画・りんたろう 編集・細山田正人 デザイン・DOMDOM

●松浦武四郎を主人公とした小説『がいなもん 松浦武四郎一代』(河治和香著)が、小学館より好評発売中!

